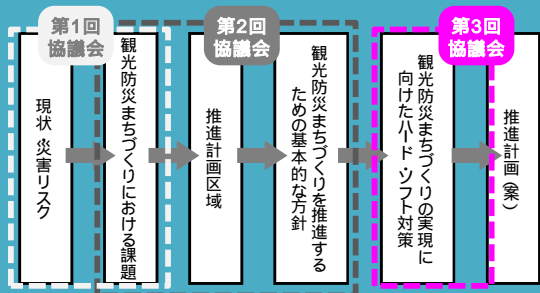


伊豆市
“海と共に生きる”

観光防災まちづくり ニュース

Vol.2



発行：伊豆市津波防災地域づくり推進協議会事務局（伊豆市防災安全課内） 発行日：平成28年11月5日
住所：静岡県伊豆市小立野38-2 TEL:0558-72-9867 FAX:0558-72-6588 E-mail:bousai@city.izu.shizuoka.jp

推進計画（素案）について、概ね方向性が共有されました！

土肥地域は、自然環境や観光資源に恵まれている一方で、人口減少、少子高齢化の進行や、災害リスクなどの課題を抱えている地域でもあります。そのため伊豆市では、地域のみなさんと一緒に考えながら、環境・観光・防災のバランスのとれたまちづくりを進めるための計画である『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（以下、推進計画）』についての検討を進めています。



みんなで考える会（10/6）開催状況

『観光防災まちづくりニュースvol.2』では、第3回伊豆市津波防災地域づくり推進協議会において示した「伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画(素案)」の概要や、第3回協議会の開催状況についてお伝えします。

第3回伊豆市津波防災地域づくり推進協議会で出された主な意見（平成28年9月15日（木）土肥支所）

本協議会では、観光防災まちづくりを進めるためのハード・ソフト対策と推進計画の素案について、概ね方向性が共有されました。
なお、「第5章 観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策」のリスクと共存する暮らし方・住まい方の対策として提示した「津波災害（特別）警戒区域の指定（裏面参照）」に関しては、今後の住民との議論を踏まえ、居住や観光への影響を会長・副会長・委員と確認しながら、適切な表現とし、地域へ丁寧に説明していくこととなりました。

- みんなで考える会では、新築する時には津波対策を行う、という意見が住民から出ている。土肥の未来にとってプラスになるという観点で、住民から県に対して「津波災害特別警戒区域」指定をお願いする方がよい（加藤会長）
- 土肥地域で空き地・空き屋が増えている中、さらに規制がかかると、住みたい人は増えないだろう。規制という言葉だけが広がって誤解を生まないか不安だ（商工関係）
- 今回の推進計画では、一般の住宅に対し規制がかかるものと考えているわけではない。その点をはっきり説明していけると、理解してもらえるのではないかと（原田副会長）
- 「津波災害（特別）警戒区域」の意味が分かるよう工夫し説明していく必要がある（静岡県）
- 一人で多くの避難を念頭に、住民に津波災害リスクを知っていただくことが重要だ（民生委員）
- 区域の範囲が分かる情報を示し、住民に説明を行うのが適切だ（加藤会長）
- 観光事業者としては、災害に強い観光地づくりやおもてなし施策の検討及び、観光施設への避難路管理も一緒になって実施することができる（観光関係）
- 県が行う防潮堤整備に関する地区協議会は、本推進協議会の検討を踏まえながら一体的に行う（静岡県）
- この推進計画は、変更や加えるべき案件について、必要に応じて随時この協議会にて検討し、内容を更新し、よりよしい取組を続けていくことができるものだ（原田副会長）

これまでの検討経緯と今後の進め方

伊豆市津波防災地域づくり推進協議会	市民のみなさん
<p>第1回協議会(2/10)</p> <p>推進計画の進め方 当地域の現状について 推進計画について 今後の協議会における検討の進め方</p>	<p>講演会(3/9)</p> <p>講演 「防災の基本とこれからの防災地域づくり」 意見交換のテーマ 「地域の状況を共有する」</p>
<p>情報提供・意見把握</p>	<p>情報提供・意見把握</p>
<p>第2回協議会(5/18)</p> <p>観光防災まちづくりにおける課題 観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（骨子案）</p>	<p>ワークショップ(1回目:4/18,25,26)</p> <p>意見交換のテーマ ・土肥地域の観光と防災のバランスをとるため、どのようなことを考えていかなければならないでしょう</p>
<p>情報提供・意見把握</p>	<p>市民集会(6/7)</p> <p>・みんなで考える会開催報告 ・第2回協議会開催報告</p>
<p>情報提供・意見把握</p>	<p>ワークショップ(2回目:7/6, 7 3回目:7/20, 21)</p> <p>意見交換のテーマ ・基本的な方針を実現するために地域で必要となる対応と支援 ・対策実施にあたり、心配なことや気になること</p>
<p>第3回協議会(9/15)</p> <p>観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（素案）</p>	<p>市民集会(10/6)</p> <p>・みんなで考える会開催報告 ・第3回協議会開催報告</p>
<p>情報提供・意見把握</p>	<p>今後も推進計画(素案)や津波災害特別警戒区域について、地域のみなさんへの情報提供や、ご意見をいただく機会を設けていきます！</p> <p>開催予定 11月中下旬 オープンハウス 12月上旬 大市民集会</p> <p>その他、「観光防災まちづくりニュース」や広報いず等による情報提供も実施予定です</p>
<p>情報提供・意見把握</p>	<p>パブリックコメント</p> <p>主な対象者 伊豆市民 みなさんからご意見をいただきたいこと ・伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（素案）</p>
<p>第4回協議会(2月開催予定)</p> <p>伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（案）</p>	<p>伊豆市“海と共に生きる” 観光防災まちづくり推進計画(案)の答申</p>
<p>伊豆市“海と共に生きる” 観光防災まちづくり推進計画(案)の答申</p>	<p>進め方については、議論の流れに応じて適宜変更</p>

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画(素案) 概要

第1章	観光防災まちづくり推進計画の背景・目的	本市では、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づきながら、伊豆市全域を推進計画区域とした【環境】・【観光】・【防災】のバランスのとれたまちづくりを進めるうえでの方向性や取り組みを示すことを目的に、『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画(素案)』を策定します。
第2章	伊豆市の現状と土肥地域が抱える災害リスク	『観光防災まちづくりニュースvol.1』をご参照ください
第3章	観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針	【基本方針】観光、環境、防災のバランスがとれた海と共に生きるまちづくり 【取組方針】共生する リスクを理解し、工夫を積み重ねて安全性を高めるエリアの形成 逃げる 住民、観光客、従業員などの安全を確保するための警戒避難体制の構築 生き延びる 地域が早期復旧するための支援機能の向上 守る・減らす 地震・津波・土砂災害による被害を少しでも減らすための防災・減災対策の推進
第4章	推進計画区域	浸水想定区域外の避難施設や広域的な支援が必要になることを考慮し、伊豆市全域を推進計画区域として設定することとしました。

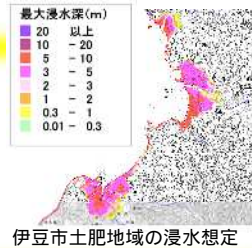
第5章 観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策

1 リスクと共存する暮らし方・住まい方(土地利用)に関する考え方

津波災害リスクを受け入れた暮らし方・住まい方を考えます

- 南海トラフ巨大地震に伴い、伊豆市土肥地域では**最大津波高T.P.10mの津波が到達するという災害リスク**が想定されています。一方で、この沿岸部には**産業機能・生活機能が集積**しています。
- 地域で暮らし続けるためにも、この地域の津波災害リスクを正しく理解し、**リスクと共存する暮らし方、住まい方**を考えていくことが必要となります。

考え方やアクション、対策は、**住民や事業者等が将来わたってやっていけそうなこと**、それらを実施するために**行政から必要な支援**について、みんなで考える会で**いただいた意見**に基づき、設定しています。



避難体制を強化する区域や子どもや高齢者等が利用する施設を安全に建ててもらう区域の指定を検討しています

- 30cm以上浸水すると歩行が困難になるといわれています。そこで、**津波浸水想定内の住民が津波から「逃げる」ことができるように、避難施設や避難路の確保や避難訓練の実施等の警戒避難体制を強化する区域**となる「津波災害警戒区域」の指定について検討しています。
- 子どもや高齢者等は避難できず、その場にとどまらざるを得ない状況が考えられます。また、2m以上浸水は建物倒壊の危険性が高まるといわれています。そこで、建物倒壊等の危険性がある区域では、**子どもや高齢者等の避難に配慮を要する方々が利用する施設**(例：社会福祉施設、学校、医療施設)を、**安全性を確保しながら建ててもらうための区域**となる「津波災害特別警戒区域」の指定について検討しています。
- これらの区域を指定することで、**将来にわたって地域の安全性を向上**させるとともに、地域で安全に暮らし続けるため、国県と協力しながら、**地区への支援策を積極的に創出**していきます。



2 警戒避難体制の整備に関する考え方

- 警戒避難体制の構築に当たっては、住民だけでなく**観光客の避難についても十分な留意**が必要です。
- 津波による浸水が想定される区域においては、**逃げるための対策を重点的に行う**とともに、円滑な避難を行うための地震・津波避難計画や津波避難地図の作成、避難ルールの検討等を進めます。また、避難場所の位置や避難経路をよ(知らない観光客でも安全に避難できる方法について、**事業者や地域住民が連携しながら検討**を行います。
- これら**対策の議論を地域で継続的に重ね改善**していくことを通して、警戒避難体制の強化・定着を図ります。

3 ハード・ソフト対策の体系

第3章に示した4つの取組方針に基づき、観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策をアクションと対策で構成します。

共生する	アクション1：地域防災力の強化 アクション2：災害リスクへの認識や防災意識の向上 アクション3：地域防災力を下支えする地域コミュニティの育成 アクション4：長期的なまちづくりを見据えた暮らし方・住まい方(土地利用)の検討 アクション5：災害に強い観光地に向けた体制構築・情報発信
逃げる	アクション1：避難のスタートラインに立つための耐震化の促進 アクション2：避難者の受け入れが可能な避難場所の確保 アクション3：円滑な避難支援のための資機材の配備 アクション4：円滑に避難するための避難経路や避難方法の検討 アクション5：避難場所まで安全にたどり着くための避難路の確保
生き延びる	アクション1：生き延びるための体制構築 アクション2：安全で衛生的な避難生活環境の確保 アクション3：備蓄の確保 アクション4：浸水想定区域外における防災拠点の確保 アクション5：災害に強いネットワーク構築 アクション6：災害に強いライフライン構築 アクション7：地籍調査の推進
守る・減らす	アクション1：海岸保全施設、河川管理施設の検討 アクション2：港湾施設の維持管理 アクション3：土砂災害対策の推進

推進計画(素案)時点の**対策の詳細な内容を知りたい方**は、伊豆市津波防災地域づくり推進協議会事務局(伊豆市防災安全課内)までお問合せください。なお、伊豆市土肥支所2Fにおいても、『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画(素案)概要版』を閲覧することが可能です。

第6章 推進計画実現に向けた今後の進め方

1 今後さらに検討が必要な事項

「観光客の避難対応」、「防災・観光を繋いだ事業」、「リスクへの理解、安全性を高めるための地域独自ルール」、「災害に強い暮らし方・住まい方や、まちを構成する機能の配置」、「津波対策施設の影響調査、整備の必要性検討」

2 推進体制

推進計画の検討体制を活用し、**各関係者が連携・協力しながら実現**を目指します。

3 推進計画の評価・検証

定期的に進捗状況の評価・検証し、意見交換や関係機関との調整等を通して、**適宜推進計画を見直し**ます。



推進計画(素案)の構成や内容については、現時点での案であり、確定した内容ではありません。そのため、今後のみなさんとの議論などによって内容が多少変更となる場合があります。推進計画(案)においては、参考として推進計画検討の経緯や、推進計画検討においてみんなで考えたこと(みんなで考える会の開催報告)等を掲載する予定です。